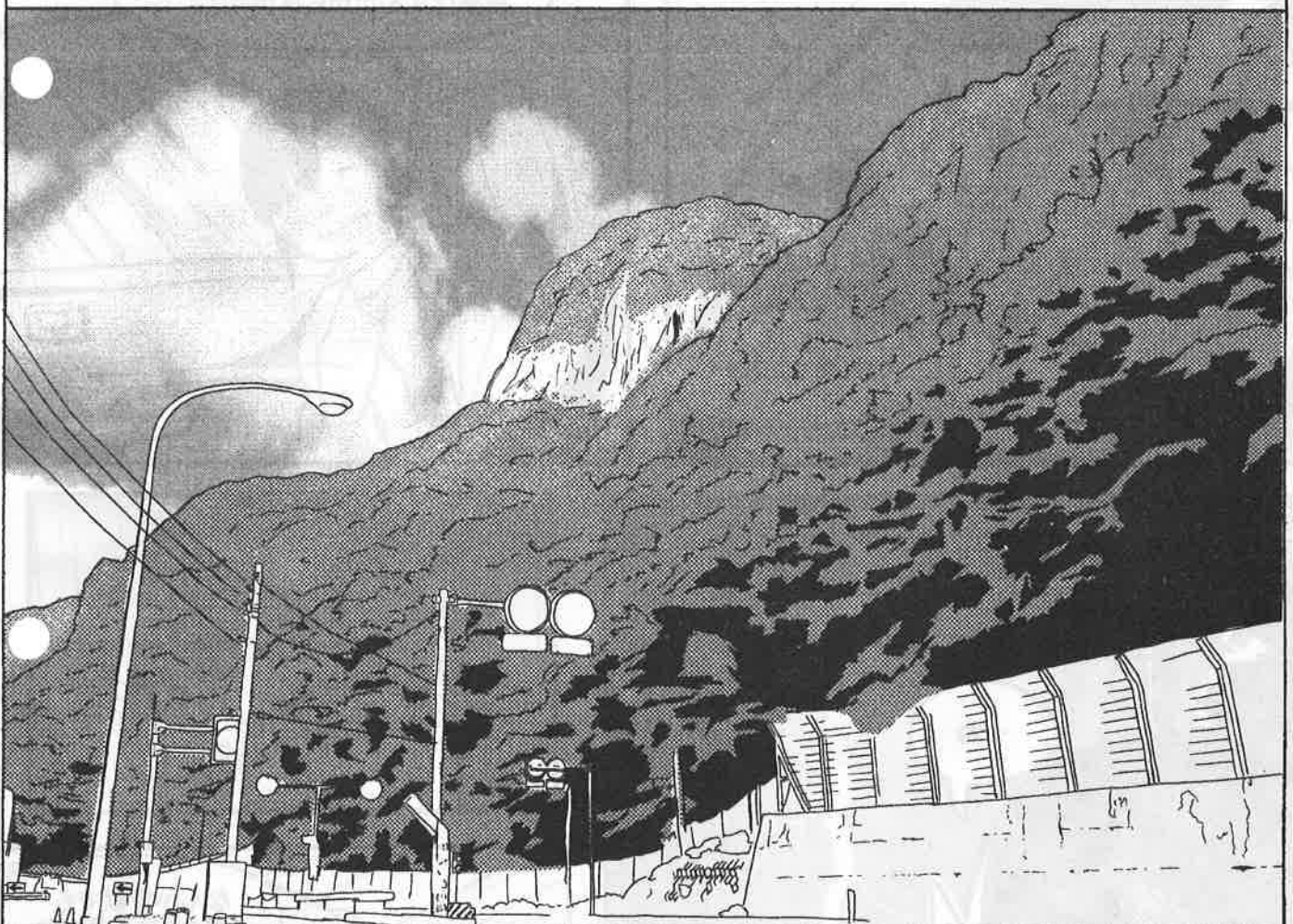


KAEDE TSUSHIN 89

楓 通 信 . 8 9

別冊ふろくマンガ

作・フクベ



日光湯元ビジターセンター
日光の情報誌 No.89
別冊ふろくマンガ

2010. 9. 30

年間購読のお申込みは、氏名・住所・電話番号を明記の上、
郵便振替にて自然公園財団宛に購読料をお支払いください。
(年途中からでもどうぞ!) 振替 No. 00370-3-7232

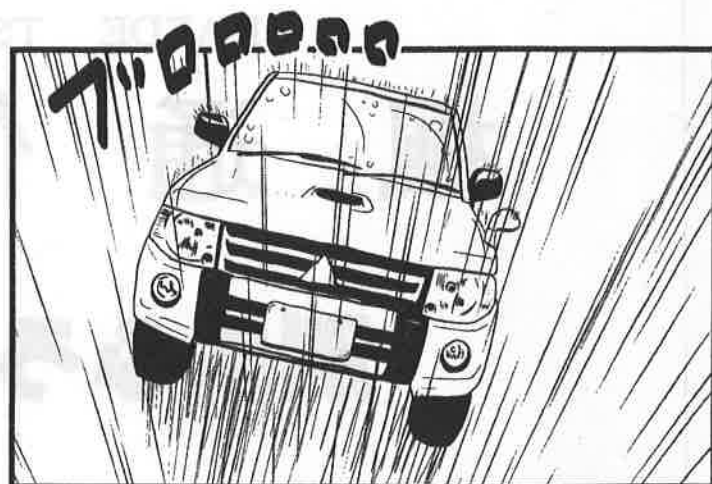
NIKKO NATIONAL PARK

(財) 自然公園財団 日光支部

〒321-1662 栃木県日光市湯元 日光湯元ビジターセンター内

TEL 0288-62-2321 FAX 0288-62-2378

<http://www.bes.or.jp/nikko/vc/>



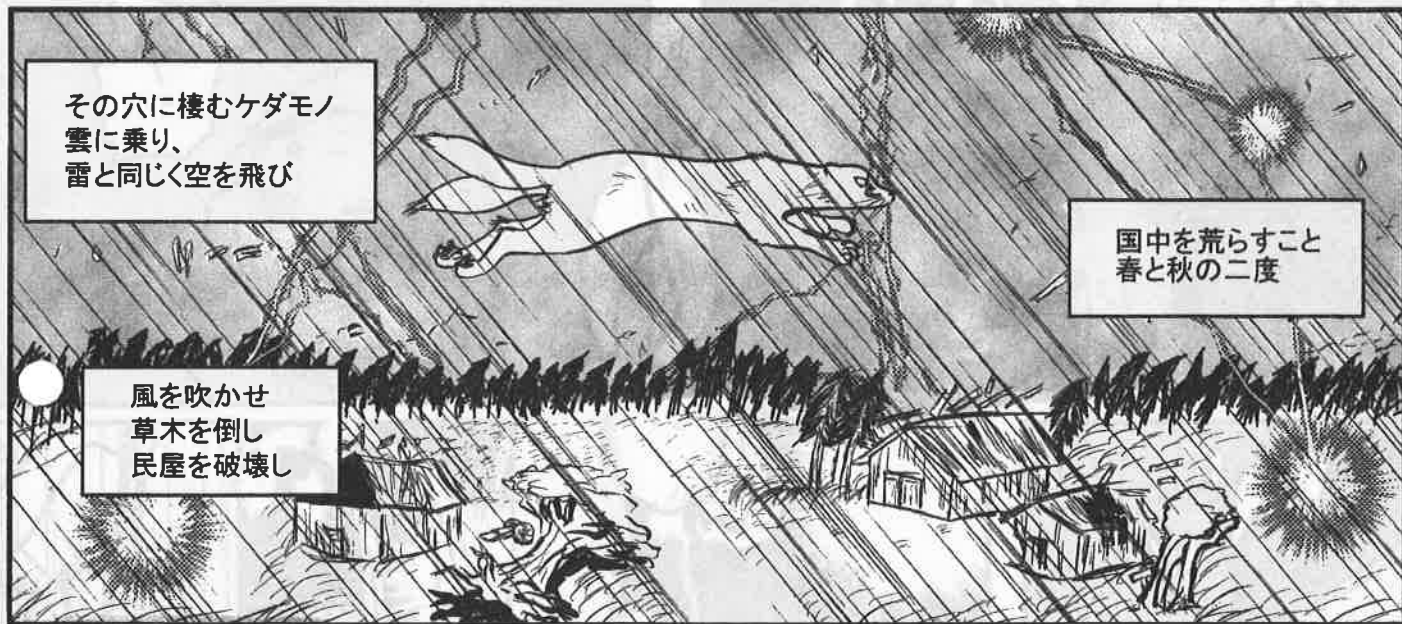


楓通信89号 別冊ふろくマンガ

びょうぶいわ かざあな

屏風岩の風穴





その穴に棲むケダモノ
雲に乗り、
雷と同じく空を飛び

国中を荒らすこと
春と秋の二度

風を吹かせ
草木を倒し
民屋を破壊し

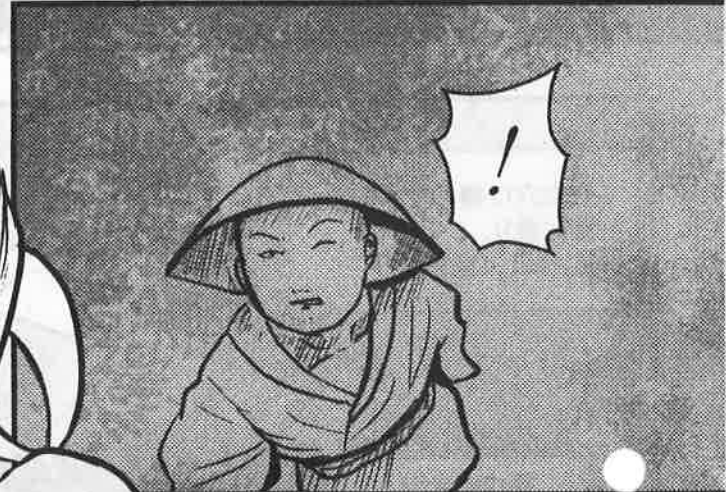
この土地は
ふたあらし
「二荒」とよばれ

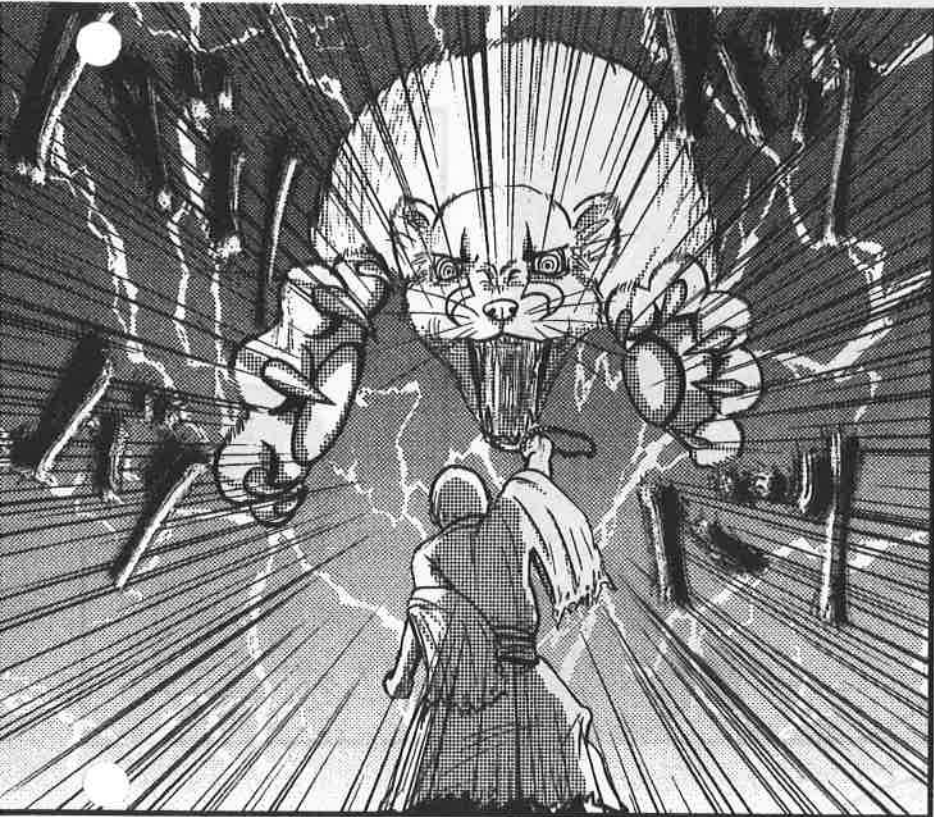
人々はその穴を
「羅刹峯」または「雷神穴」
とよび畏れた

そして時は弘仁^{こうにん}十一(820)年



弘法大師空海がこの地を訪れる
空海46歳の時であったという





空海は見事に結界し、これを封じこめ
それ以後暴風も止み
民も安心して暮らせるようになりました



そして空海が
二荒→ニッコウ→日光
としたのは有名だね

ちゃん
ちゃん



え!? そうなんですか??

松尾芭蕉も『奥の細道』で
いってるよ知らしめかね?
老翁よ



二回荒れるから、「二荒」になったのも
「二荒」から「日光」になったのも分ったんですけど、
そもそも、なんで春と秋に国が荒れたんですか?



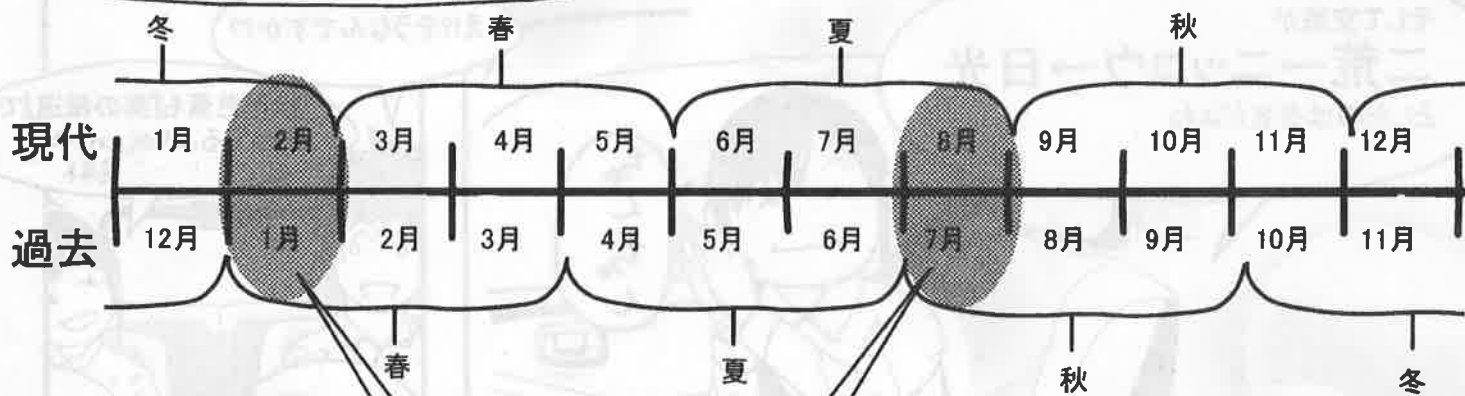
え? えっと...
だから、それは雷獣が...

でも本当に雷獣が
居たわけじゃないですよ

日光の気候の特徴で、夏の「日光雷」^{にっこうかみなり}と
乾燥した冷風、冬の「男体風」^{なんたいおろし}がありますけど、
それぞれ春と秋とは反対ですね

そっか
今気がついたよ

季節が違うんだよ!
今と昔では、1ヶ月くらいカレンダーがズレていて、
四季も今とは月が違うんだ



男体風と日光雷が起きていたのか?

つまり今の「夏」と「冬」が
昔の「春」と「秋」だったんだ!

なんか
面白くなってきましたね!

でしょ!
よしちょっと黒髪平に
寄って行こう

ここから風穴が見えるんだけど、
下からの景色と比べてみて

…なんか大きく見える?

江戸時代(1837)に植田孟緒^{もうしん}によって書かれた『日光山志』という本の中に風穴の記述があるの

これに
雷獣^{らいじゅう}の話も
のってる

日光山志

風穴の大きさを縦一丈(約3m)、幅六～七尺(約2m)って書いてあるんだけど、下から見上げてたからなのかな?ここから見ると、影の具合なのか、もっと大きく見えるんだよね

じゃ、俺達は空海と同じ景色を見てるかもしれないんですね!

他にも、明智平の食堂や廊下からも見る事ができるんだよ

明智平
ハノラマレストハウス

オ～



でも、ここから
風穴が見えるなんて
誰も知らないっすよね

うん...



そーなんだよねー
こんなに面白い伝説もあって
「日光」の由来の一つと言われてるのに
あんまり有名じゃないのって
“見えても心に届いてないから”だと思うんだよ

下りの第一いろは坂からの景色とか
すごくキレイなんだけど、
屏風岩がゆっくり見られる展望スペースはないからね



「名所」になりそこねた
「迷所」みたいな！

…ちょっとオヤジギャグ



植田孟縉が『日光山志』を書いた時も
1000年も昔の空海の話は、
伝説みたいなものだったろうし

それに春秋二荒の「二荒」説や
空海の「二荒」→「日光」説も
沢山ある中の1説にすぎないんだよ

それに空海が本当に日光に来たかどうかも...



これだけ一つの場所(風穴)に沢山の話があるのになんか、もったいないですね



それだけ、ずっと昔から日光の自然に魅せられた人々の歴史があるって事なんだよ

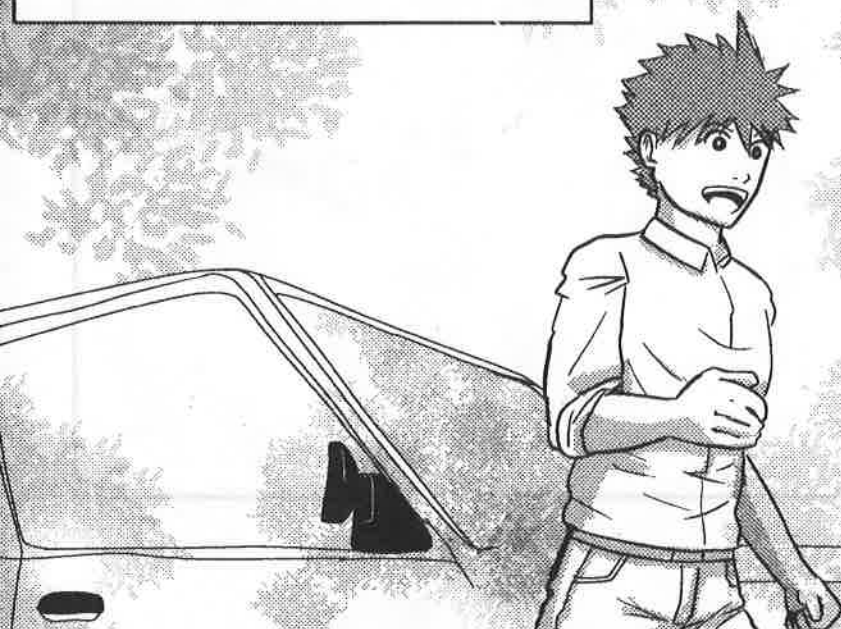


俺はその後も色々な話を聞かせてもらった



勝道上人の分骨、切込湖刈込湖の大蛇、近代では、イタリア大使館、男体山の大薙の工事

誰もが知ってる名所や伝説、また、その歴史の中で埋もれてしまった話



まだまだ、俺の知らない奥日光の魅力が沢山あると思うと少し嬉しかった



End

